

調査票AとBにおける匿名データ作成方法の比較

○社会生活基本調査には、調査票A(プリコード方式)と調査票B(アフターコード方式)がある

○調査票Aの匿名データ作成については、調査票Bと比べ、調査事項が広範囲であり時系列比較可能性をより有していることから先行して検討され、既に諮問第13号の答申により提供中

○今回の諮問は、調査票Bの匿名データ作成について

調査票の種類	調査票A (平成3、8、13、18年)	調査票B (平成13、18年)
対象数	約20万人(約8万世帯)	約1万人(約4千世帯)
匿名データ作成方法		
	諮問第13号の答申により提供中	今回の諮問内容
地域区分	2区分 (「3大都市圏」、「その他」)	1区分 (全国)
リサンプリング	世帯単位でまとめた上で、個人を単位とするリサンプリング率を80%	同左
直接的な識別情報の削除	調査区番号、氏名等を削除	同左
間接的な識別情報の匿名化	世帯人員数8人以上の世帯を削除	世帯人員数9人以上の世帯を削除
	三つ子以上がいる世帯を削除	同左
	—	子どもの数の多い世帯において、発生頻度の少ない世帯を削除
	—	母子世帯、父子世帯において、発生頻度の少ない世帯を削除
トップコーディング	世帯員の年齢 (9歳以下は各歳、10歳以上は5歳階級で85歳以上は85歳でトップコーディング)	同左
	末子年齢 (12歳以上は12歳でトップコーディング)	平成13、18年共 12歳でトップコーディング